



釣り場割引クーポン券

野田幸手園 椎の木湖 清澄湖 谷和原大沼
 単人大池 上尾園 F.A吉羽園 谷養魚場
 得監 柳生F.P 筑波白水湖 泉堰 逆井H.C
 友部湯崎湖 水藻F.C 甲南へらの池
 三和新池 狭山H.C 新座L.C 川越F.C
 府中H.C 当麻池 多賀釣池 芦田湖水光園
 鳥羽井沼 朝日池 大上へら池 田島池
 霧の沼 清川つくりF.C 小川つり煙園
 三名湖・舟宿 光月 千代田湖・舟宿 千和
 西湖・釣舟 白根 西湖・釣り宿 丸美
 西湖・釣り宿 青木ヶ原 165ページ〜

8 特集 乗込み、ワイルドゲーム!

- Wild Game.1 生井澤 聡 in 亀山湖
 Wild Game.2 稲毛利夫 in 城沼
 Wild Game.3 田辺哲男 in 芦ノ湖

●今月の表紙●
 angler: 生井澤 聡 &
 稲毛利夫 & 田辺哲男
 field: 亀山湖 &
 城沼 & 芦ノ湖
 photo: 本誌・里 & 諸
 layout: 本誌・里

COLOR (カラー)

- 34 名手・石井旭舟がいく、へら鮒出会い旅... へらぶな浪漫街道
 《第二十九回》群馬県・丹生湖
- 42 小池忠教 激釣大全
 《第四回》豊英湖
- 50 杉山達也のSPLASH BEAT Ⅲ
 《Vol.13》ド満タン、日曜日の精進湖・赤池に突撃!!
- 57 **ダイワ虎徹・龍聖 試釣会 野田幸手園**
- ★AREA REPORT
- 58,66 高滝湖(千葉県) 本誌・伊藤洋一
 60,68 河北潟(石川県) 山本一朗
 61,69 筏川寄せ場、準寄せ場(愛知県) 後藤 誠
 62,70 隠れ谷池(和歌山県) 前田誠志
 63,71 有明干拓池(福岡県) 河口正伸
- 64 私の宝物
 《Tresure.4》ゲスト:松戸 健さん
- 134 竹とともに生きる。
 《第23回》鉄心斎 葛原淳生
- 137 戸張 誠 野釣り道場
 《第十三回》【相模湖・乗込み】
- 143 稲毛師匠と編集部諸が行く、ODEKO危険度120%
 《第6回》権現堂川・川妻給排水機場前、高須賀池、(埼玉&茨城県)
- 146 棚網 久 あなたの夢を叶えます。
 「ミスターG、乗込みべらを釣らせて下さい!」
 ドリーマー:高橋わたるさん 釣り場:碓氷衛広沼
- 152 吉川ひとみの「へらってヤバイわっ!!」
 《Vol.35》「コテコテ野釣りで1枚釣らせて!」
 明秋で、ついに奇跡が起こる!?
- 156 チョーチン王・田中雅司の深宙奥義伝承 魚心掌握
 Vol.9【早期の両ダンゴ釣法から見える大小混在釣場の傾向】流源湖
- 193 本音で追るへら用品インプレッション。へらアイテムメッタ斬り!
 【プロミニ銀閣 & 大砲 pro.DX】 (株)スノーピーク
- 194 岡田 清 Deep Side Angle
 《Vol.20》【ベーシックボトム】 真嶋園(千葉県)
- 201 北川穂積の全国野釣り行脚
 《第5回》府中湖(香川県)
- 204 釣りの帰りに寄りたお店
 《file.10》荒川旧川 中の淵近く
 【タイムフローズ】のボンゴレロッソ
- 206 釣果予想クイズ
- 208 フィッシングレディ
 《今月のレディ》羽山麻子さん 神扇池(埼玉県)

STAFF

- Producer
 根本百合子
- Editor in chief
 田中里史
- Editor
 大場勝良
 諸富一秋
 伊藤小百合
 伊藤洋一
- Planner
 <オフィス・えふ>
 藤原 肇

MONOCHROME (モノクロ)

- 73 **SAIKAI倶楽部 第1回懇親釣会 嵯峨ら湖**
- 75 **黒べえ松本店 新規オープン**
- 76 へら鮒釣り 超基本講座
 《第6回》ボート釣りの超基本 実釣編
- 83 あらしいのぶの なぜなぜしのちゃん
 《第6回》「しのちゃん、巨べらを釣る!?!」城沼
 教授:稲毛利夫さん
- 88 NHCスピリット
 《Vol.21》福田幸男 in 富里乃堰
- 92 トーナメントー小林恭之が挑む! 竿頭までぶっ飛ばせ!!
 《Vol.18》クラブスリーワン「友部湯崎湖」例会ゲスト参加
- 99 江成公隆のトーナメントー、復活への道。
 《Vol.36》助っ人登場、カットビ君15年振りの執筆!
- 106 そんなモジリにダマされて... 天野正由
 《その18》相模川水系への誘い(相模湖~相模川)
- 110 水辺のプラネタリウム 吉本垂土
 《今月の星空》「NY魚市場」
- 115 どやさー 今月の釣り場 西田美明
 《その6》水藻フィッシングセンターは春
- 118 最狂へら戦士養成所「鮒の穴」 漢タカハシ
 《第二十八話》【印鑑限定45cmオーバーを釣り上げる!! 漢タカハシ乗込み奮闘記PART1】
- 122 新連載 母なる湖... 琵琶湖べらを釣れ! 南 元彦
 《第2回》【津田干拓水路で46cm琵琶湖べら見参!】
- 126 野田幸手園新聞
- 162 ワクワク管理釣り場情報
- 171 小売店情報
- ★へら鮒BOX
- 177 里ちゃんの新米編集長雑誌
 178 情報発信基地
 180 ボイス
 186 コラム『へら狂おやじと呼ばないで』 白石和弘
 187 コラム『日研だより』 日研広報部長・遠藤克己
 188 新連載 コラム『日々是、勉強!』 ホワイト
 189 コラム『紀州「想いの竹」のものがたり』 中峯伸行
 190 プレゼント発表
 191 広告索引
 192 編集後記

※田辺哲男「それってどーゆーことよ!?!」はお休みさせて頂きます。ご了承下さい。



はじめに

現在の江成公隆を表現するならば「絶滅危惧種のへら師」と言っていだろう。釣り場に居るのか居ないのか？ それとも釣りをやめて消えてしまうのか？ そう、イリオモテヤマネコやヤンバルクイナと一緒にような存在である。

もしあなたが、釣り場で彼を見かけた事があるならば、それはチョコボールで金のエンゼルが当たったようなもの。僕自身、彼と一緒に釣りをしたのは約1年前の、弁天FC月例会が最後ということになる。

そんな彼と僕の現在の関係を表現するとして、釣友という言葉よりもメル友と言ったほうが、正解かもしれない。一緒に行きたくても、一緒に行けないのだ。そのメル友からの最近のメールが少し淋しい。物事とことんまで追い込んで考え込んでいく真面目な？性格の彼。かなり病んできているのは明白だった。

みなさんもご存知の通り、江成家には次男が誕生、自身も職場での異動と、釣りどころではないだろう。ましてや原稿の執筆ともなると考えただけで、辛い状態に違いない。僕自身、友人として読者として、このコーナーの存続も「そろそろ限界かな」と感じ始めていた。そんな矢先、江成君から「代わりに原稿を書いてくれないか」というメールを頂いた。僕の他に適任者はいないのか？ 雑誌に出たい人は山ほどいるのではないのか？ そんな考えが頭をよぎった。しかしながら、江成君にはその選択肢が少ないのではないだろうか？

前述したが、江成君は、ほとんど釣りをしていない。当然ながら昔のようにつるんで釣りに行く友人もいなければ、復帰してからの

この3年間、新しく出来た釣友もごく僅かにいない。だから僕なのか…

僕にとって江成君は、トーナメントの釣りに夢中になるきっかけを与えてくれた人であり、釣りに対する様々なヒントを与えてくれた人。

そこで、今回は昔の恩返しをすべく「代打」出場をさせていただく事にしました。いつものような濃い内容の記事を楽しみにしている読者の方々には期待はずれの文章かもしれないませんが、僕が書く15年振りの文章をそっと見守ってください。

ところで、肝心の内容ですが、今回、江成君と釣りをしながら話した「思い出話」を僕からの視点でまとめたものをお届けしたいと思います。



江成公隆

僕が彼の存在を知ったのは「へら鮒」誌では、現在掲載されなくなった釣りの例会報告欄の中にその名前を見たのが最初だったと思う。「江成公隆」。正直言って、僕はこの名前を何と読むのがよく分からなかった。最近ではTVDドラマ「渡る世間は」などのドラマで活躍中の俳優「えなりかずき」君の存在があるので「えなり」という響きに異和感を覚えなないかもしれない。しかし、当時の僕にとつては不思議な名前でしかなく、もしかしてこの人は中国人なのかと勝手な想像をしていた。

勿論、その名前にだけにひかれて注目していたはずもなく、そのケタ外れた釣果や釣り方に目を引くものがあったからだ。そんな彼が使うエサは、いつも決まってる。バラケはゴールド1000・グルふま・マツハがベイスで、調整用に本かつつけ・スーパー素・バクダン・ダンゴの底釣り夏。クワセはオカユ・オカメ・ウドンを使い分けていた。これは江成君がまだふまつげんのモニターになる前のことで、大きな会ではチャンボンのエサで結果を出していることも珍しかった。

そして目を引く「上3cm、下8cm」という極端に短いハリス。ハリはオーナーばかりから出していた特殊な形状のハリ「イザム」。釣り方はカツケが多かった。これが当時の彼が多用していた釣りのパターンであり、Vデータでもあった。

こうして思い出してみると、なんだか懐かしいと思う反面、やっぱり今でもありえない独特の短ハリスに目を引かれてしまう(当時、セット釣りの上ハリスの長さは15ぐらいが主流であった)。どんな人なんだろう、一度、この目で見てみたい。

今ではハッキリとは覚えていないけれど、そんな誌面の中にいた彼を実際に見るまで、僕が注目し始めてから、そう時間は掛からなかったと思う。

加復の衝撃

「シマノジャパンカップ」関東予選。場所は加須吉沼だった。

この日は朝からあいにくの雨で、池は極度の食い渋り。オテコ続出という状況であった。

僕は一回戦、短竿のバラケにウドンのセミカツケという釣りでブロックの中ではトップの釣果で予選を通過していた。他のブロックの釣果はどうか？

掲示板に目をやると、その通過者の中に「彼」はしっかりといた。しかもブロックトップで。

2回戦の抽選。少し太めの縁の眼鏡、白いシャツにGパン。一見、サラリーマン風の青年。それが初めて見る江成公隆であった。

強くなる雨の中、二回戦がスタート。僕はウドンに反応をなくしたへらの前にどうすることも出来ず、ギブアップ状態。そんな中、彼はけたたましいアワセで次々と魚を釣り上げていた。そう、あの短いハリスとオカメで。

結果、江成君やサンデーマスターズの人達が予選通過枠をほぼ独占し、全国大会へと進んでいった。残念ながら、その後の全国大会で、江成君はいまいちブレイクしなかった。が、ちょうどこの頃からだったか、昔で江成君達の噂が囁かれるようになったのは、「すぐぐ短いハリスでやけに釣る奴らがいる」とか「釣りを始めて2、3年の奴が全国大会に出たらしい」とか。もちろん、良い噂ばかりではなく「奴らはスレなんか平気でフラシに入っちゃー」とか「彼らの短いハリスは？本バリ

規定の中で一本バリの釣りをする作戦だ」とか「仕事もしないで等々力に入り浸りだ」など悪い噂もたくさんあった。いずれにせよ、彼らの釣り・存在が、へらの世界に大きなインパクトを与えていたという事の表れだったのだと思う。

この頃から僕も仲間たちも人伝に聞いた情報や噂をよりどころに「なんちゃって短バリ」をひそかに練習していた。管理釣り場・釣り堀、時には山に行つてまで。所かまわずアタリがあれば、どんな釣り場でも。まあ、それは病気のように(笑)。

シマノの予選から、1年ぐらい過ぎた頃だったか、2度目の彼との遭遇も同じく加須吉沼だった。

第一回ふまつげん愛用者大会、関東決勝。偶然にも僕は彼の2つ隣の席を引き当てていた。「よし、練習の成果を試してみよう」僕は練習を重ねたバラケにオカメのカツケ釣りを選択。もちろん、彼もその釣りであった。スタートの合図から少ししたぐらいいから、突然、釣れ始まった彼。まさにイレバク状態。少し大きめのバラケをスーッと振込み、2、3度のサソイの後で、決まって消し込んでいくウキ。そしてあのアワセ。VTRでも見ているかのように同じ動きを繰り返すウキの動きに自分の釣りを忘れてつい見入ってしまう僕。

「凄じいというより、慣れてるな」それが、僕が間近で見た、彼の釣りの印象だった。

僕達の「なんちゃって短バリ」の想像をはるかに越えていた本物の姿を見た気がした。ちなみに、この日の江成君は20枚ぐらいいまでは、まさに優勝というペースだったが、突然の釣り方変更。なぜか短竿の両ト口口の釣りへ。そして失速。

後日、理由を聞いたらセットに飽きたからとか。意外に欲がなかったんですね(笑)。

初対面

2度の加須での衝撃から数カ月後、僕は共通の友人を通して、彼と知り合う機会を得た。ハッキリとは覚えていないけれど、確か堅苦しい挨拶などはなく、会話が始まったと思う。江「いやー、カットビ君とまさか一緒に釣りが出来るなんて思いませんでしたよ。オレ昔、カットビ君の記事、よく読んでたんだよね。実は、その頃オレ、へらもマブナもコイも全部一緒にフラシに入れて釣れたらって喜んでたんだよね。釣れると嬉しくてさ。アハハハ」(笑)

江「読んでくれてたんですね？」
江「オレ、恥ずかしがり屋だからさ(※絶対ウソ)」

確か、こんな会話をしていたと思う。でも、正直言つて、僕は驚きを隠せなかった。それは、江成君が僕の事を知っていたという事にはない。小さい頃から釣りをやっていたとはいえ、本格的にへら釣りを始めて僅か数年の人に追い抜かれてしまっているという事実を、直接突き付けられた事になった。ハッキリ言つてショックだった。自分がエサだ、釣り方だと雑誌の中で能書きをたれていた頃に初心者だった人が、今は、「情けないな」。そう思う反面、努力次第で、ほんの僅かな時間でアツという間に上達し、活躍することが出来るんだなという希望のようなものを感じている自分もいた(実はこの頃、江成君は普通の人で10年ばかり釣行回数を僅か2、3年でこなしていたという事も、適切なアドバイスを送っていた師匠がいたということも後で知ることになるのだが)。

最後の電話

友人になつてからというものの、僕は江成君と釣り場で会うと彼の釣りを見ることに没頭していた。

「絶対に何かあるはずだ」

それは例会中であろうと取材中であろうとお構いなしだった。きつとかなり邪魔になっていたと思う。江成君には、この場を借りて謝りたい。

僕は彼から見聞きしたことを繰り返し練習し、そして大会に出る日々が続いた。

熱くなつていく僕の追及心・情熱に対して、冷めていく江成君の釣りに対する気持ちに気付いたのは、ちょうど、江成君が今の仕事に転職した頃のことだと思ふ。

僕は例によつて、釣りの話でもしたくて江成君に電話をかけたのだと思う。そんな僕に対して、江成君は少し冷めた、そして沈んだ口調でこつ言つた。

「いや、最近、あまり釣りに行ってないんだよ。だからエサのことか聞かれても、よく分からないんだよ。ふまつげんのモニターも辞めちゃったしさ。なんだか釣りはもういやつて感じかな。オレ、スキーとかスノーボードとか、全然したことないんだよ。なんというか、普通の若い人がするような遊びをのんびり楽しんでみたいんだよ、実は」

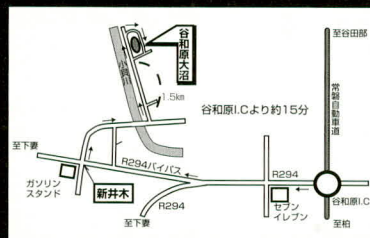
この頃の江成君に何があつたかは、転職という事実以外、僕にはよく分からないし、彼の言葉が本心だったのかどうかも知る由もない。

「この人にこれ以上触れるのはやめよう」

そう思つた僕は、この電話を最後に江成君に電話をかけるのを止めた。そして、この後ぐらいいから、江成君の姿が釣り場から消えていったのだ……。

大小、様々なへらがぎっしり！ カツケから底釣りまで、思う存分腕を磨いてください！！

アたる！ 釣れる！
谷和原大沼



- 入場料 1日2000円 半日1500円
女性・中学生以下 1500円
- 営業時間
4~9月 平日 6:00~16:30
土日祝日 5:30~16:00
10~3月 平日 6:30~16:00
土日祝日 6:30~15:30
- 規定 竿7~18尺 タナ・エサ自由
(生きエサ・一本バリ禁止)

〒300-2400 茨城県筑波郡谷和原村根新田228
☎0297-52-2763

大型新べらの強引を味わいに、ぜひお越しください！！

トーナメントポイント

ちょうど僕はこの頃、自分の釣りというものに疑問を感じ始めていた。というのも、今まで必ずアタリが出ていたタイミングで、思うようにアタリが出なくなってきたからだ。ノーアタリと激力ラを続ける自分のウキの動き。当然、釣果は伸びる筈もなかった。えな理論は正しいのか？と感じ始めていた頃だ。(この頃僕が感じていた疑問と同様なことについて、以前このコーナーの江成君と伊藤洋一さんの対談の中で紹介されているので参考してください)

僕たちはこの頃、アタリを強くする為には、エサを完全にシメきる方向へ進むのが常であった。アタリを出すためにエサをシメるという事は間違っていないし、今も昔も変わってはいないと思う。

では、何がいけなかったのか？ それは、僕たちが落下中というタナを軽視し、あくまでも張り切った位置に、そのシメる基準をおいていたからではないかと思う。実は「最後の電話」の後、僕は一度江成君の釣りに見ている。もう、この頃は、ほとんど釣りをしていなかった頃だと思う。この時の江成君のウキの動きが、僕が駄目だと感じていた自分のウキの動きと一緒にあったのだ。

「江成君がやっても、こういう動きしか出ないなら、もう、この釣りではないんだな」

僕が今まで追ってきた釣りのスタイルを変えて、浅ナジミの釣りを追究するきっかけとなる出来事だった。

その後、僕は99、00と2年連続でダイワの大会で優勝している。釣り方は当時、あまりやる人がいなかった重めのバラケを早く抜くゼロナジミのセット釣り。そう、散々練習を繰り返したナジませる短パリスの釣りとは正

反対の釣り方で。では、僕にとって短パリスの釣りをしていたことが無駄な事だったのか？ ただのミハー的な発想での真似事だったのか？ いや、それは違う。短パリスというセッティングを自分の釣りの中に取り入れてわかったこと、それは江成君の釣りの本質的な部分を知る手がかりとなったと思う。僕が江成君から学んだ一番重要なことは、《可能な限り、理詰めで釣らなければいけない》

…ということだ(江成君の釣りは当時の常識の中では、大きく外れていた考え方もあり、僕も受け入れられないものもあった。しかしながら、江成君は、自分の釣りに信念を持っていた)。だからこそ、僕も当時やる人の少なかった浅ナジミの釣りに到達し、優勝することが出来たのではないかと思っている。

先ほど、ふまつげんの大会ではセットに飽きて釣り方を変更したことにに対し、僕は彼が無欲だと書いた。しかし実は、これこそが江成公隆の江成公隆たる所以であったのだ。得意の釣りをあっさり捨ててまで彼が目指したものは一体何だったのか？ それは究極のオールマイティであったのだらうと僕は見ている。すでにこの連載も3年が経過し、読者の皆さんは彼の目指したものに気付いているはず。

《釣りは全てつながっている》

これが彼の口癖だった。圧倒的な釣行回数多さによって短期間にトップクラスに登り詰めた彼であったが、その釣技は丸暗記ではなく、全て理詰めだった。彼の釣りには覚えるべき公式が少なかった。極端なことを言えば、セットから両トロ口への移行の際も、ゼロからの探りは必要ないのだ。データはセットの時点である程度拾えているからである。

こちらが聞いていないことまでよく喋っていた江成君。教え好きな彼は、得意技だけを磨いて絶頂期を早急に迎えようとはせず、彼

のあとに続いた大竹君(今や、大竹君も伝説の域だ…)にトーナメントはまかせ、彼らの理論を体系化することに力を注いでいたようにも見えた。もっとも彼の長期的な展望では、完全無欠のオールマイティになってから絶頂期を迎えたいという野望があったのかもしれない。全ての技でぶっち切るといふ野望…。当時のベースのまま、釣りを続けていたら可能だったに違いない。しかしそれは叶わなかった。結婚、転職。相次いで訪れた人生の転機に、彼は「普通の人」になる決心をしたのだらう。



新バージョン登場!! 【セミロングスタイル・ソリッドムク】

熱い要望に応え、ついに登場。
速攻の両ダンゴから段底まで、用途は自由自在!

- ボディは羽根2枚合わせ6mm径で必要十分な浮力
- 厳選されたスローテーパー1mm径ソリッドムクトップ
- サイズ：一番 (T20cm B8cm カーボン足8cm)
～五番 (T28cm B14cm カーボン足8cm)
- 好評発売中(問い合わせは下記釣具店まで) 定価1本6,825円(税込)

取り扱い店(五十音順)

埼玉・越谷 かわせみ (048-969-5067) 茨城・下妻 こやの釣具 (0296-44-1619) 東京・渋谷 サンスイ川釣り館 (03-3499-5025)
埼玉・入間 へらの三水 (042-964-2093) 栃木・益子 フィッシングハウス ぼの (0286-72-2215) 神奈川・川崎 鮎仙人 (044-287-7470)
東京・吉祥寺 丸勝 (0422-22-8923) 東京・青梅 吉川釣具店 (0428-22-2467)

へら浮子 杉山作

久しぶりに見かけた江成君の姿は「へら鮒」誌の誌面の中であった。

この連載の開始と共に、釣りの世界に戻ってきた江成君ではあったが、僕は一読者として彼を見守っていた。直接、会話をすることには何か少し抵抗があったからだ。もしかすると、最後の電話の影響かもしれない。

そんな僕が再び、連絡を取り始めるきっかけになったのは僕の結婚であった。それまで我が家にはパソコンが無かったのだが、嫁入り道具として我が家にやってきたのだった。それまでは見る機会の無かった釣り関連のホームページ。色々あるんだなあと感心。ある日、江成君のホームページを見ていた時のこと。後ろから見ていた妻の一言だった。

「知り合いならメールでも送ってみたら？」
こうして、僕は江成君とメールで連絡を取るようになった。現在では俗に言う、メル友というやつになる。

そして昨年の弁天FCの月例会（04年5月6月号参照）で再会することになったのだ。

4月10日、取材？当日の横利根川は、これぞ春の休日と思えるような暖かな陽をうけたかと思えば、一変して冬を思わせるような寒さになるという不安定な天候であった。しかも、超の付く激シブ状態である。

そんな中、僕の隣では、思い出話をしながら楽しそうに釣りをしている江成君がいた。

ウキの動きを見ながらボツリと呟く江成節や、あの強烈（独特？）なアワセは今も健在。竿を握れば今も昔と変わらぬ彼に少し安心した。

「これで来月号は書けるかな」

はるか以前から、「日曜日しか出来ない」、「時間的・経済的な問題で釣行回数が少ない」けれど、それでも活躍するトーナメントは尊敬の対象となってきた。

だけど、本当に純粋なサンデーアングラーと呼べるか疑問に感じるスターもいたと思うし、出てしまった好成績を維持するために釣行ペースを上げ、結果として家庭を壊してしまった人を僕は何人も見てきた。

ごく普通のサラリーマンという立場で考え

れば、トーナメントへ参戦し続けるのはやはり厳しいのが現実であり、僕だっこの先どうなるかは分からない。趣味の雑誌は夢があって楽しいが、あまりにも現実とかけ離れてしまっていては、つまらなくなってしまう。だからこそ、江成君の存在は「リアル」であり貴重なのだと、僕は思う。

あの頃、僕や多くの若手が彼を目標としていた。里史編集長も、今では雑誌にカラーで登場しているあの人達も、みんなが彼を追っていたのだ。

連載開始当初、「江成公隆って誰？」、そう感じた人も多かったろう。

残念ながらメジャートーナメント全国大会での成績は芳しくなかった彼の名前は、歴代チャンピオンの中に見つけることは出来ない。釣りを始めて間もない人には説得力に欠ける連載スタートだったのは否定出来ないと思う。

それでも当時のトーナメント達の記憶から決して消えることのない名前が「江成公隆」なのだ。そんな彼ともう一度、戦ってみたいと思うのは僕だけだろうか。

最後に、僕は江成君にこの言葉を贈りたい。

「みんな待ってるよ、きつと!!」

完

カットビ君こと西澤良純氏から江成への熱いメッセージ、いかがだったでしょうか？

読み終えた里は、このまま江成を終わらせてはならない使命感が湧いてくるのを自覚しました。10年計画、続行！

なお、横利根での「なんちゃって取材」の一週間後、江成は等々力F.Cへと釣行したというから、里の目論見はまんまと成功したことになり、まずはめでたしめでたし。

さらに次号は、管理釣り場で取材を行う約束もとつけてあります。乞う御期待！

by里ちん

釣番付

料金表

50名まで	55,000円
51名～75名	60,000円
76名～100名	65,000円
101名～125名	70,000円
126名～150名	75,000円
151名～175名	80,000円
176名～200名	85,000円

- ・仕上がりは黒一色です
- ・人数は成績表部分のみ数えます

書体見本

- 1.ぐりへの鮒会
- 2.ぐりへの鮒会
- 3.ぐりへら鮒会

- ・番付をインターネットで公開できます（無料）

お問い合わせご注文はお早めに！

取扱店：柴舟 03-3613-2727

ウキや小物の銘入れに 転写シール

初回注文黒一色、300銘で8,500円～
2回目以降同じものをご注文の場合は3,500円～

- ・8書体、8色を御用意しています
- ・角印も作れます

取扱店：

柴舟（東京都江戸川区）

03-3613-2727

佐伯釣具店（神奈川県川崎市）

044-911-3722

SANSUI川づり館（東京都渋谷区）

03-3499-5025

フィッシング中原（神奈川県川崎市）

044-711-8266

鮒仙人（神奈川県川崎市）

044-287-7470

お問い合わせ、ご注文は各取扱店
または下記HPまでどうぞ

office27
あとりえぐり

http://www.office27.com
E-mail:info@office27.com

第14回 **丸マルキュー**

クラブ対抗 へら鮎釣り選手権大会

信じるのは、離れて竿を振る二人の仲間。

貫くのは、皆で磨いてきた自分たちの釣り。

支え合い、一人で釣るとき以上の力を出してこそ、

近付いてくる、表彰台の頂点。

第14回クラブ対抗選手権。

日本一の栄光を手にしたとき、三人のへら師の胸中は、

一人では決して得られない、大きな喜びで満たされる。

三人でなければ、得られない喜びがある。

- 北海道予選 **7月10日(日) 追分池** (北海道)
東北予選 **7月18日(祝) 田吾作釣り堀** (山形県)
北信越予選 **6月19日(日) 新潟ひょうたん池** (新潟県)
関東予選Ⅰ **5月29日(日) 筑波白水湖** (茨城県)
関東予選Ⅱ **7月18日(祝) 隼人大池** (埼玉県)
関東代表決定戦 **9月19日(祝) 谷和原大沼** (茨城県)
中京予選 **7月23日(土) つつじ池** (岐阜県)
関西予選 **7月31日(日) 水藻フィッシングセンター** (大阪府)
九州予選Ⅰ **7月17日(日) 和田中池** (福岡県)
九州予選Ⅱ **7月31日(日) 和田中池** (福岡県)
九州代表決定戦 **8月 7日(日) 和田中池** (福岡県)
全国大会
決勝戦 **10月10日(祝) 椎の木湖** (埼玉県)

詳細は本誌P178またはチラシ、マルキューホームページをご覧ください。 <http://www.marukyu.com/>

定価 1000円
本体九五二円

